

TEL 233 340 000

FAX 224 313 684

Email gakko@jpschool.cz

VLTAVA

学校教育目標

「 自ら学び 共に学ぶ 豊かな心と国際性あふれる たくましい児童生徒の育成 」

目指す子ども像

「 かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子 」

こころをひらく

(6月14日朝会の校長講話から)

皆さんおはようございます。

上方舞小川流家元四世小川照さんが本校に来られて、すばらしい舞を披露していただきました。なかなか日本でも日本舞踊に接することは少ないので貴重な体験だったと思います。小川さんは、皆さんの真剣に見る姿やいっしょに体を動かす姿を見て、「ほんとうにかしこいお子さんたちですね」とおほめの言葉を何度も何度も仰っていました。私もみんなの小川さんへのお礼の手紙を読ませてもらい、舞の世界を素直な心で受け入れていることに感動しました。一流の舞を見ることもすごいけれども、その一流の舞を見て心から「すごい」って言えるみんなもすごいと思います。そういうみんなの心の持ち方を、「心がひらかれている」と言います。舞という日本文化に心をひらいて素直に感動したのです。

また、皆さんはチェコに住んでいますから、学校の中では日本文化だけれども、一歩外に出るとチェコの文化や歴史、伝統にいつも触れることになります。ですから、チェコという国に対しても心がひらかれていることも大切だと思います。中学部の生徒は、チェコの学校と交流を2日にわたって行いました。ある中学生は、「日本語で話しかけられて安心した」と言っていました。これは、相手の学校の生徒が日本語に心をひらいてくれたからでしょうね。自分たちも心をひらいていくことで、簡単なあいさつや自己紹介をきっかけに、お互いの心はつながっていくのだと思います。相手に対して心をひらけば、わからないときには「教えてください」という思いで一言がふっと出るし、相手に尋ねられたら「教えてあげますよ」と思いが何かを相手に伝えていきます。これは、普段の学校生活でも言えることだと思います。

心をひらく、すると心がつながる、そして最後に何かを作り上げるといいですね。ひらき、つなぎ、そして何かをつむいでいってください。

最後に、先日の36回目の開校記念日で、大梶先生が開校からずっとプラハ日本人学校にお力を注いでいただいたことを皆さんにお伝えしました。大梶先生が、この7月で退職されることとなりますので、皆さんに少し早いですけれども伝えしておきます。

校章は、1983年に菩提樹の花をデザインして創られました。今菩提樹の花のつぼみがふくらみ始めています。葉の中から花が咲き、実がなるんですよ。チェコ日協会の菩提樹祭りは18日夜から19日に行われます。

